

委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	産業建設常任委員会
参加委員 ◎委員長、○副委員長	◎上野 利一郎 ○遠藤 吉正 十二村 秀孝 蛭川 靖弘 佐藤 忠孝 佐原 正秀

1 本市の課題と視察の目的

本市の将来像である「豊かで元気な農山村と活力ある生活・観光都市」の実現に向け種々施策に取り組んでいるが、高齢化の急激な進展により、農業の担い手も高齢化し、各種作物の栽培面積の拡大や新規作物の導入など、新たな施策を模索しているところである。

NPO法人ゆうきハートネットは、岐阜県白川町で平成10年に立ち上がった有機農業でまちづくりを目指す団体で、販売促進・技術の向上・就農支援・体験交流の4つの事業を中心にして活動している。平成30年には農林水産祭の「むらづくり」部門において、【内閣総理大臣賞】を受賞している。これらの取組を研修させていただくことで、本市における今後の事業展開の参考にする。

2 実施概要

実施日時	視察先	岐阜県 白川町
令和4年11月8日(火) 9時00分～10時30分	担当部局	NPO法人ゆうきハートネット
視察項目	NPO法人ゆうきハートネットの取組について	
報告内容	1 NPO法人ゆうきハートネットの成り立ち 平成10年 有機農業の生産技術研鑽を目的として設立(任意団体) 平成15年 有機稲作の学習と実践(共同で苗作りその後の情報交換)民間稲作研究所方式 平成21年 有機農業推進法モデルタウン事業申請(ソフト&ハード) 消費者との交流を通じ、有機農業を志す若者を次第に受け入れる。 平成23年 NPO法人化 本格的に就農希望者の就農定住支援を開始 平成30年 農林水産祭の「むらづくり」部門において【内閣総理大臣賞】を受賞 2 消費者との連携 (1) 流域自給を守る大豆畑トラスト:生産者10名、会員約300名 消費者が大豆畑5坪3,150円で投資をし、日常管理を生産者に委託し、生産した大豆を消費者に提供している。 (2) はさ掛けトラスト:生産者8名、会員20名 はさ掛け米20kg一口14,000円で会員に販売し、会員は田植えや稲刈りなどの作業に協力している。わらはストローベイルハウスづくりに活用されている。 3 4つの事業 (1) 技術向上 水稻の共同育苗、著名な農学者や実践者を招いた講演会・技術研修会の開催や先進地視察を行っている。 (2) 販売促進	

	「郷蔵米生産組合」、「大豆畑トラスト」、「はさ掛けトラスト」の活動による販売先の確保、オーガニックファーマーズ名古屋との連携による「オーガニックファーマーズ朝市村」、「タぐれ市」等での販売、有機農産物を取り扱うスーパーとの提携を行っている。 (3) 体験交流事業 「大豆畑トラスト」等で行う会員との交流イベントやオーガニックファーマーズ名古屋と連携した有機農業体験ツアーの開催を行っている。 (4) 就農・移住支援 ア 受入窓口 県の就農相談会、移住相談会などの出展、HPでの研修生募集やオーガニックファーマーズ名古屋の就農相談窓口からの受入れを行っている。 イ 就農研修体制：あすなる農業塾（岐阜県独自の制度） ゆうきハートネット会員で有機農業の塾長4名が登録しており、これまでに10名の有機農業塾生を受入れている。 ウ 移住支援：コーディネーターとしての地元会員 会員からの農地・空き家情報等を、白川町移住・交流サポートセンターと連携して集約し、就農・移住希望者へ情報提供、賃貸交渉・近隣へのあいさつにも同行しスムーズな移住を手伝っている。 エ 移住後の生活支援 「大豆畑トラスト」等の契約販売やスーパーとの連携、アルバイトの紹介などをし、経営が安定するまでの生活をサポートしている。 オ 実績 平成23年～29年（7年間）で、移住者18戸50名を受入れ、移住した家族の中で14名が白川町で出生、移住者は消防団活動や地域芸能などの担い手にもなっており、町内の有機農家栽培面積は5%を超える。 4 会員の経営形態及び地域貢献 (1) 会員の経営形態 多品種少量生産、小品目で量産、半農半X型 (2) 地域貢献 消防団活動、農地継承、伝統文化・行事継承
考 察 (まとめ)	NPO法人ゆうきハートネットで、本格的に就農希望者の就農定住支援を行っている実例を検証できた視察内容であった。 有機農業を志す若者の初期段階での就農決意をしっかりと見極めることが重要であり、それが就農の継続になることが確認できた。 また、就農後の若者の生活がいかに安定するか你的生活支援と、地区への担い手としての多様な交流活動の重要性も確認できた。 生産性では劣るが、有機農業をメインにすることにより、高値での米価売買が可能となり、特定の顧客のニーズと結び付けてそれが継続に努力していることが興味深い。 我が市での新規就農と就農支援の在り方の根幹としての考え方として、今後の提言に繋げてまいりたい。

